

Japanese – Impetigo (School Sores)

細菌感染症



膿痂疹 (とびひ)

重要ポイント

- とびひは皮膚の表面が細菌に感染して起きる
- 顔や腕、脚に起こりやすい
- とびひは伝染性で、家庭内や学校で感染することがある
- 皮膚を消毒液で処理する。場合によっては抗生物質を経口投与または塗布する必要がある

症状

とびひは皮膚が細菌に感染しておこり、表皮にかさぶたや滲出、まれに水ぶくれをおこします。数日の間に顔や四肢の皮膚に現れ、胴体に広がることもあります。

伝染性が強く、家庭内や学校でうつることがあります。英語名の **school sores** はそこから来ています。

通常他の症状をもたらすことは無く、痕も残りません。まれに湿疹等の既存症の上に起こることもあります。そうすると湿疹が悪化し、滲出や黄色いかさぶたができることがあります。

治療法

とびひは虫刺されを掻いたりしてできる皮膚の小さな傷から始まる場合があります。それを防ぐために、切り傷や掻き傷を消毒しましょう。

極く軽症のとびひは、感染した皮膚を消毒液で洗浄したり、医師が処方する殺菌クリームを塗布して治療できることがあります。広い範囲に広がっている時は、医師が経口抗生物質を処方して消毒法と併用することがあります。

とびひに感染している子供は他の子供との接触を避けなければなりません。経口抗生物質の投与を始めてから24時間以上経っていれば、伝染性は無くなっているはずです。

より詳しい情報の入手先：

母子健康看護師

薬剤師

かかりつけの医師

皮膚科専門医